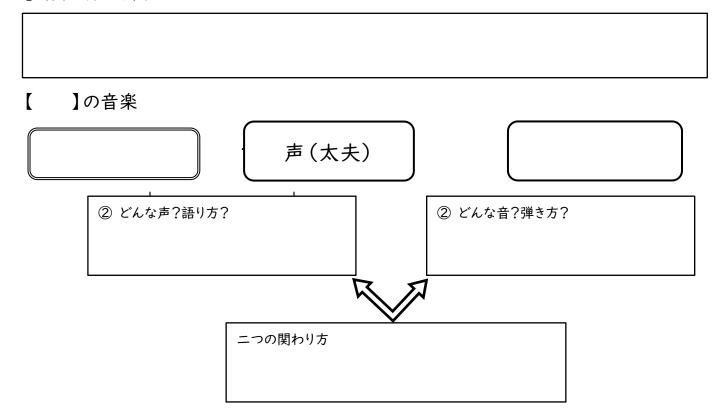
#### 何の音楽だろう【】

① 音楽を聴いて気付いたこと





# 声(太夫)

- ・旋律はなく、喋る。一音一音を短く語る。三味線の拍子にのってリズミカルに語る。(詞・コトバ)
- ・抑揚を付けて語っている。(色)
- ・延ばしや揺れが多く旋律がある。歌っている感じ。(地)

# 太棹三味線

- ~声がある時~
  - ・合図 (合の手)
  - ・伴奏 声と同じ音の場合や、寄り添っている場合がある。
  - ·BGM 長い詞の後ろで演奏される
- ~声がない時~
  - 太棹三味線のみ(間奏・効果音)

## 他の楽器 (効果音)

### ①鑑賞部分の詞章

昨 日の仇は今日の味方、 あら心安や嬉しやな。これぞこ

の世の暇乞ひ」と振り返つて竜 顔 を見奉るも目に涙

今際の名残りに天皇も見返り給ふ別れの門 出

とゞまるこなたは冥途の出 せぶみ 船

さらば」も声ばかり、渦巻く波に飛び入つてあヘなく消えた 『三途の海の瀬踏せん』と碇を取つて 頭 にかづき「さらば、 なきがら

ちひろ

る忠臣義臣、その亡 骸は大物の千尋の底に朽ち果て、、名は 引く汐に揺られ流れ、(流れ流れて)跡白浪とぞなりにける

陸に源平戦ふは、 又は源氏の陣所々々に数多駒の嘶くは畜生道。 門我が子の身に報ふたか、是非もなや。 取りも直さず修羅道の苦しみ。

只今この海に沈んで末代に名を残さん。大物 かく深手を負ふたればながらへ果てぬこの知盛

伝へよや。サア息あるその内に、 沖にて判官に仇をなせしは知盛が怨霊なりと 片時も早く

帝 の供奉を頼むく」

とよろぼひ立てば

と御手を取つて出で給へば 帝の御身は義経がいづくまでも供奉せん。 オ、我れはこれより九州の尾形方へ赴くなり。

亀井

駿河

こうべ

武蔵坊、 御跡に引添ふたり

知盛莞爾と打ち笑みて 昨日の仇は今日の味方、 あら心安や嬉しや

今際の名残りに天皇も見返り給ふ別れの と振り返つて竜顔を見奉るも目に涙 な。これぞこの世の暇乞ひ」 門出

とゞまるこなたは冥途の出船 『三途の海の瀬踏せん』と碇を取つて頭にかづき

りにける 果てゝ、 たる忠臣義臣、 も声ばかり、渦巻く波に飛び入つてあへなく消え さらば、さらば 名は引く汐に揺られ流 その亡骸は大物の千尋の底に朽ち 跡白浪とぞな